

国立研究開発法人
日本医療研究開発機構（AMED）委託事業

平成 29 年度
ゲノム病理標準化センター
第 10 回 病理標準化センター講習会 報告書

於 北海道大学 医学部学友会館「フラテ」 大研修室

平成 29 (2017) 年 6 月

第10回 ゲノム病理標準化センター講習会報告書

「ゲノム研究等に資する質の高い病理組織検体の取扱いに関する高度専門知識を有する人材の育成」を目的とした「平成28年度 第10回ゲノム病理標準化センター講習会」を2017年6月24日（土）、北海道大学 医学部学友会館「フラテ」大研修室にて開催した。

今回は本年度初回の講習会で、「東京のみならず広く地域でも開催する」ことを目的に、北海道・東北で初の開催であった。

開催決定から講習会開催日まで案内・募集期間が短い中で、また日程が取れず、北海道がんセンターで開催の臨床検査技師会の技術講習会「匠の会」と日程が重なったなどがあり、参加者は49名にとどまった。参加者の声としては、道内開催は交通の便などがむしろ悪く、東京開催の講習会より不便であるとの声が聞かれた。

参加者は49名で、内訳は病理医が10名、臨床検査技師が26名、臨床医が6名、その他が7名（研究職医師、研修医、大学院生が各2名、技術員（企業）が1名）であった。

はじめに北海道大学大学院医学研究科 腫瘍病理学分野 教授 田中伸哉氏より北海道で初の開催に関しての挨拶があった。続いて主催者である東京大学医学部附属病院 病院長 斎藤延人氏の代理として、東京大学医学部附属病院 病理部・病理診断科 副部長 佐々木毅が本講習会の目的やこれまでの経緯について説明した。

講義では、「ゲノム医療実現に向けたオーダーメイド医療の実現化プログラムの取り組みと病理組織バンキングの構築」として、東京大学新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻 教授 松田浩一氏にご講演いただいた。

さらに「ヒト病理検体からのゲノム診断と研究」というテーマで、東京大学医学部附属病院 病理部・病理診断科 副部長 佐々木毅が「病理診断を妨げない検体採取法等」を主とした講演を行った。

次いで日本病理学会のAMED委託事業である実証研究に関して、「ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程の解説」と題して、「ゲノム研究用病理組織取扱い規程」作成の実証実験に北海道大学在籍中に携わっていた北海道がんセンター がんゲノム医療センター長 西原広史氏よりご講演いただいた。

いずれの講演もアンケートの評価は高いものであったが、要望としては北海道開催を定期的に継続して行って欲しいという要望があり、また地方開催時にも、実習をして実施してほしいという要望が会場内で多く聞かれ、今後の課題と考えられた。また、アンケート結果の集計は各講

師の先生方にもフィードバックしているが、その意見等をもとに毎回、パワーポイントのスライドを更新してご講演くださっているため、テキストを「固定」することが難しく、今後も都度のハンドアウトの印刷は必要であると考えられた。

講習会の終了にあたり、聴講生には修了証書が配布された。また聴講生 1 人 1 人には「ゲノム病理標準化センター講習会ホームページ」で講習内容が復習可能なコンテンツの閲覧と e-ラーニングが受講できるように専用の ID、パスワードを配布し受講を促した。

アンケート結果の詳細に関しては、添付資料を参照されたい。

(文責 東京大学医学部附属病院 病理部 佐々木毅)

*別添付資料：

1. 第 10 回ゲノム病理標準化センター講習会 プログラム
2. 第 10 回ゲノム病理標準化センター講習会 参加者一覧
3. 第 10 回ゲノム病理標準化センター講習会 アンケート結果報告